



美江寺宿の史跡等



- ① 宿の東口の道標
すいこうじ
- ② 瑞光寺
- ③ 一里塚跡
しゅんこじ
- ④ 自然居士墓
- ⑤ 造り酒屋 布屋
- ⑥ 美江寺 (十六条) 城跡
- ⑦ 美江寺観音堂
- ⑧ 美江神社と高札場
- ⑨ 和田家末裔の和田家
- ⑩ 本陣跡
- ⑪ 美江寺千手観音堂
せんたいじ
- ⑫ 千駄寺



美江寺宿の史跡等

① 宿の東口の道標



美江寺宿の東入口あたりに設置されている道標です。



美江寺宿の史跡等

② 瑞光寺



境内には句碑や山本友左坊の墓碑があります。



浄土宗西山禅林寺派の寺院。美江寺宿本陣山本家に生まれた美濃派獅子門以哉派^{し し もん い さい は}9世道統・山本友左坊^{ゆう さ ぼう}の菩提寺です。瑞光寺は、もとは天台宗に属しましたが、美江寺が和田佐渡守^{さ どの か み}によって再興された折に冠婚葬祭の一堂は浄土宗に改められました。



美江寺宿の史跡等

③ 一里塚跡



街道に設けられた^{りていひょう}里程標です。塚は1里（4km）ごとに街道の両側に設けられました。5間（約9m）四方に土盛りし、塚の上にはエノキを植え、旅人の目印としたり休憩地としました。美江寺宿の一里塚は、古大門（七軒町）地内にありました。大正3年に美江神社に払い下げられ以前の姿をとどめていましたが、同13年に隣地の所有者に払い下げられ、開墾されて宅地になりました。

現在は、「美江寺一里塚跡」の石標が一里塚のあった反対側に設置されています。



美江寺宿の史跡等

④ じねんこじ 自然居士墓



自然居士は、和泉国日根郡自然田村出身で、法相の学を修め、のち、
禅宗に入り、臨済宗南禅寺大明国師に師事したとされています。僧侶ではなく、
法を説くので、居士と称して回遊し、美江寺に逗留して千体仏造頭を初願しました。
千体仏は瑞穂市田之上の千駄寺に祀られています。墓所には多数の五輪塔が並んで
いますが、どれが居士のものであるかは分かっていません。



美江寺宿の史跡等

⑤ 造り酒屋 布屋



元禄 9 年（1696）、加納藩は、美江寺宿の繁栄を図るために宿内に造り酒屋を取り立てるよう指示しました。加納の酒屋与左衛門から酒株を分与された文左衛門が美江寺宿で酒屋「布屋」を創業しました。

明治 24 年（1891）の濃尾大震災では、宿内の全ての建物が倒壊しましたが、布屋の建物だけは被害を受けませんでした。今でも外観から太い柱や丈夫な構造を見ることができます。



美江寺宿の史跡等

⑥ 美江寺（十六条）城跡



この地は、戦国末期に美濃国守護・土岐氏の武将であった和田氏の本拠であり、
応仁・文明のころ（1460年頃）和田氏が城を構えました。

和田氏は代々土岐氏に従っていましたが、土岐市を退けた斎藤道三が美濃の実権を握ると、
反目する和田氏を攻め、天文11年（1542）9月、夜戦の放火により城は焼失しました。



美江寺宿の史跡等

⑦ 美江寺観音堂



美江寺観音堂は、明治35年(1902)に和田泰吉が願主となり、美江寺の信徒が協賛して建立されました。これは、岐阜に移転した「美江寺観音」の旧地復興の願望が秘められていました。美江寺観音が斉藤道三によって岐阜に移転した後も本尊十一面観世音菩薩の厨子の鍵は、

和田家が代々保管してきた経緯があったこともあり、和田家所有地内に美江寺区の総取持により堂宇※及び山車と山車蔵を建立し、堂宇には、和田家の秘仏の観音を安置しました。ここで、毎年3月の第1日曜日を「お蚕祭り」の日とし、100年以上続く祭事を執り行い、地域に残る歴史と文化を脈々と受け継いでいます。(出典：巣南町史)

※堂宇…堂の建物



美江寺宿の史跡等

⑧ 美江神社と高札場



現在の美江神社の祭神は、家津御子神・熊野久須美神・速玉男神であり、熊野三社の祭神を勧請したとしています。永禄9年(1566)8月、十四条村から白山権現を勧請※したことから、伊邪那美神いざなみのかみが加わっています。明治14年(1881)に「美江神社」に改称しました。

江戸時代には、大鳥居脇に宿の高札場があり、現在は、境内に高札場が復元されています。

※勧請…神仏の分霊を請じ迎えること



美江寺宿の史跡等

⑨ 和田家末裔の和田家



美江神社前の和田家は、美江寺（十六条）城主和田氏の末裔と伝わっています。



美江寺宿の史跡等

⑩ 本陣跡



本陣は、大名・高家・公卿・幕吏などの休憩宿泊に当てられる施設です。

美江寺宿の本陣は、宿駅が設置された寛永14年（1637）より32年後の寛文9年（1669）春、加納藩主戸田光永によって建設されました。

本陣の管理には問屋金兵衛（初代）が当たりました。その後は長助が継ぎましたが不祥事で追放となり、長助の子、金兵衛（善右衛門）が山本姓を名乗り管理しました。以後、山本家が世襲して本陣の経営にあたりました。

本陣の建物は、明治24年の濃尾震災で倒壊したため再建されました。現在の建物は、平成3年に改築されたものです。



美江寺宿の史跡等

⑪ 美江寺千手観音堂



石造の千手観音像を祀っています。

この像の側面にある銘には「天保4年(1833)7月20日建立 中山道美江寺宿」とあります。

中山道犀川通りの難所を通行する人々の安全を守るために、甘南美寺^{かんなみじ}の馬頭観音の分身として十一面千手観音としました。これを馬頭観音というのは、難所で倒れた馬の供養^{すいこうじ}のために建立したからと考えられています。観音堂は瑞光寺に所属し、自治会が管理しています。

美江寺宿の史跡等

せんたいじ ⑫ 千躰寺の千躰仏



自然居士は、和泉国日根郡自然田村出身の禅僧で、臨済宗南禅寺大明国師に師事したとされています。遊行僧として回遊し、美江寺に逗留して千体仏造願を初願しました。

千体仏は瑞穂市田之上の千躰寺に祀られています。

千躰仏は市の指定有形文化財に指定されています。